

1 古文基礎

1 仮名遣い

次の言葉を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

(1) いにしへ 〈千葉〉

(2) いづこ 〈山口〉

(3) たぐひなく 〈長野〉

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(4)

(5) さはめたる 〈大阪A〉

(6) つひやし 〈千葉〉

(7)

(8)

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(10) おほかた 〈青森〉

(11) ふかるるやうに 〈埼玉〉

(12) るて 〈広島〉

(13) ゆゑ 〈佐賀〉

(14) かうむり 〈石川〉

(15) かやう 〈岐阜〉

(16) なほさうざうしけれ 〈三重〉

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(17)

(18) 交はり 〈山梨〉

(19)

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

（東京）

仮名遣い

この頃の花こそ初心と申す頃なるを、極めたるやうに主の思ひて、はや
申^{さるが}樂^アにそばみたる輪説をし、至りたる風体をする事、あさましき事なり。
たどひ、人も褒め、名人などに勝つとも、これは一旦めづらしき花なりと思ひ悟りて、いよいよ物まねをも直^{すぐ}にし定め、名を得たらん人に事を細かに問ひて、稽古をいや増しにすべし。

（注）申^{さる}樂^ア：日本の古い芸能の一種。

（『風姿花伝』による）

5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

3

仮名遣い・作品の種類

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

思ひつつ 寝ればや人の 見えつらむ 夢と知りせば 覚めざらましを

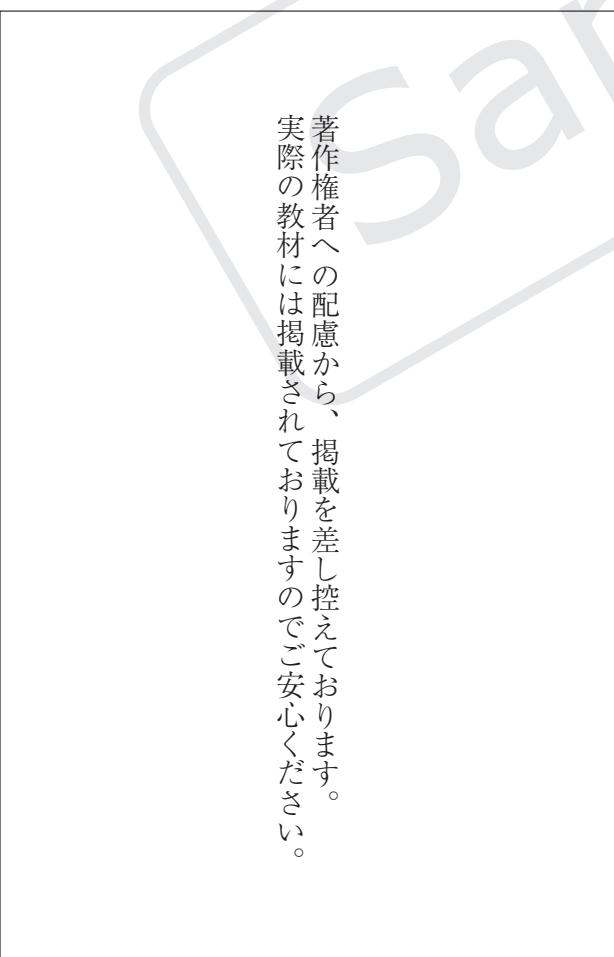
滋賀

（1）「思ひつつ」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

（2）この作品の種類として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 俳句
- イ 漢詩
- ウ 和歌
- エ 隨筆



7

係り結び

次は、「徒然草」の冒頭の部分です。これを読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

（京都）

つれづれなるまゝに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよなし事を、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

（「徒然草」による）

「ものぐるほしけれ」のように、「係り結び」によって結びの部分が変化している文として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア やしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。

イ

あるとき思ひたちて、ただ一人、徒歩より詣でけり。

ウ

月のころはさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。

エ

春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたりける。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりませんのでご安心ください。

8

主語把握

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

（長崎）

ある^{*ざい}在家人、山寺の僧を信じて、*世間・出世深くたのみて、病む事もあれば薬までも問ひけり。
（注）在家人：僧にならず一般の生活を営みながら、仏教を信仰している人。

（「沙石集」による）

「薬までも問ひけり」の主語を書き抜きなさい。



9

次の中文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

〈和歌山〉

言い換え・仮名遣い・内容把握

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして、旅をすみかとす。古人も多く旅に死せるあり。

〔おくのほそ道〕による

(1) 「過客」と同じ意味の語を、本文中から書き抜きなさい。

(2) 「とらへて」を現代仮名遣いに直して書きなさい。

(3) 「古人も多くの旅に死せるあり」の内容として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 昔の人の中にも、旅の途中で亡くなつた人が多い。
 イ 亡くなつた人の多くも、死ぬ前に旅を思い出した。
 ウ 年老いた人も、旅を夢見て亡くなることが多い。
 エ 旧友の多くも、旅する前に亡くなつてしまつた。



10

次の中文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

〈静岡〉

仮名遣い・主語把握

粗忽なる若衆、餅をまゐる^①とて、物數を心がけ、あまりふためひて、喉召し上がる^②ひとつでも多くあわてて、喉に詰まる。人々せうしがりて、薬をまゐらせても、この餅通らず。

〔ア 気の毒に思い差し上げても〕

何かといふうちに、天下一のまじなひ手を呼びければ、やがてまじなふぞうこうしているうちに

〔イ すぐに折つて〕

て、そのまま、ちりげもとを、一つ叩きければ、りうごのごとくなる餅、

〔ウ 真ん中にくびれた形をした〕

*三間あまり先へ、飛んで出る。

〔きのふはけふの物語〕による

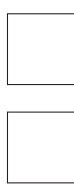
(注) まじなひ手…ここでは、神仏などの力を借りて病気などを取り除く者。

ちりげもと…ここでは、背中側の首のつけ根のあたり。

三間：約五・四メートル。

(1) 「まゐる」を現代仮名遣いに直して書きなさい。

(2) 「詰まる」「呼びけれ」「まじなふ」「叩き」から、その主語に当たるもののが同じであるものを二つ選び、記号で答えなさい。



次の文章は、筆者がある年の夏を東山で過ごした後、冬の初めの東山に

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりませんのでご安心ください。

ついて書いた日記の一節です。これを読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

奈良

かみなづき* 十月ごもりがたに、あからさまに^①来てみれば、こ暗う茂れりし木の葉
ども残りなく散りみだれて、いみじくあはれげに見えわたりて、心地よげ
にささらぎ流れし水も、木の葉にうづもれて、あとばかり見ゆ。

水さへぞすみたえにける木の葉散る嵐の山の心ぼそさに

訳 「澄んだ水までもが澄むどころか住むことをやめてしまったのだ」

〔注〕つごもりがた：月末頃。 あからさまに：ちょっと。 あと：流れの跡。

〔更級日記〕による

(1) 「来てみれば」の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 来てみると イ 来なくても
ウ もし来ると エ 来てみても

(2) 「^②ささらぎ」の動詞からは、水が音を立てて流れていることがわかります。

この流れの様子を表す副詞を四字の現代語で書きなさい。

(3) この文章に込められた筆者の思いの説明として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア すっかり木の葉が落ち、水の流れも見えなくなつた十月末の静かな東山
は、かえつて夏よりも趣があると感動している。

イ 木の葉は散り水はかれ、動物の姿も全く見えなくなつてしまつた東山を
訪れ、生命力にあふれた夏をなつかしんでいる。

ウ 嵐によつて様変わりした東山を見て、自然の猛威の前では人間は無力であると知り、この世の無常を悲しく思つてゐる。

工 木の葉が散つた東山で、自分が去つた後に水の流れまでもが
見えなくなつていてことを発見し、寂しさを実感している。

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

（三重）

むかし、男、いとうるはしき友ありけり。かた時さらすあひ思ひける
を、人の國へいきけるを、いとあはれと思ひて、別れにけり。月日経てお
こせたる文に、
した

あさましく、対面せず、月日の経にけること。
あきれるほど
忘れやしたまひにけむ
お忘れになつたのだろうか
と、いたく思ひわびてなむはべる。世の中の人の心は、目離るれば忘れ
ぬべきものにこそあめれ。
ひとく
悲しく思つて
あわずに離れていれば忘
れてしまふもののようです
といへりければ、よみてやる。
ウ
歌を詠んで贈る

② 目離るとも思ほえなく忘らるる時しなければおもかげに立つ
離れてあわずにいるとも、とても思えませんのに。あなたを忘れられる時なんて片時だつてないので、いつももあなたが面影に現れて、目の前にいます。
(「伊勢物語」による)

(1) 「あはれと思ひて」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

(2) 「おこせたる」「思ひわび」「いへりけれ」「よみてやる」の中で、その主語に
当たるもののが他と異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

(3) 「目離るとも思ほえなく忘らるる時しなければおもかげに立つ」の和歌
は、手紙の中のどのような問い合わせに対する返答として詠んだものですか。
文章中の古文から十字で書き抜きなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

